

# 北九州市の環境再生とSDGs 未来都市への道のり

## 産業の発展

## 公害の克服

## 環境国際協力開始／資源循環型社会へ

明治34(1901)年	八幡製鉄所、工業都市への第一歩
昭和18(1943)年	洞海湾の水が汚れて魚がいなくなる
昭和25(1950)年	戸畑の中原婦人会が公害反対運動を始める
昭和35(1960)年	重化学工業の発展とともに公害問題深刻化
昭和38(1963)年	五市合併により北九州市が誕生
昭和40(1965)年	八幡西区域小学校で日本一多い量のばいじんが降る
	戸畑区婦人会協議会が8ミリ記録映画「青空がましい」を制作
昭和44(1969)年	洞海湾が生き物が埋めたい「死の海」であることがわかる
昭和44(1969)年	大気汚染がひどくなり初めてスモッグ警報が出される
	北九州市公害防止条例を制定
昭和45(1970)年	公害監視センターが完成
昭和47(1972)年	市内54事業所と公害防止協定締結
昭和49(1974)年	洞海湾浚渫工事開始
	洞海湾に魚が見られるようになる
昭和55(1980)年	財団法人北九州国際研修協会(現、財団法人北九州国際技術協力(KITA))設立
昭和60(1985)年	北九州市の公害克服の取り組みが世界で紹介される
昭和62(1987)年	環境庁星空の街コンテストで「星空の街」に選ばれる
平成 2(1990)年	国連環境計画から国内自治体初の「グローバル500賞」受賞
平成 4(1992)年	地球サミットで「国連地方自治体表彰」受賞
平成 4(1992)年	KITAに環境協力センター開設
	「ごみとリサイクルを考える北九州委員会」設置
平成 5(1993)年	「北九州まち美化懇話会」設置
	かん・びん分別収集開始
平成 6(1994)年	「北九州市空き缶等の散乱の防止に関する条例」制定
	「アジェンダ21北九州」策定
平成 8(1996)年	ODAによる大連開発調査開始
	「市民いっせいまち美化の日」(第1回)開催
平成 9(1997)年	北九州エコタウン事業開始
平成10(1998)年	一般ごみ収集の指定袋制度が始まり、ごみ袋が有料となる
平成12(2000)年	北九州市環境基本条例制定
平成13(2001)年	環境をテーマにした「北九州博覧祭」開催
	大連市との国際環境協力を認められ「中国国家友せん賞」受賞
平成14(2002)年	「地球サミット2002持続可能な開発表彰」受賞
	「環境ミュージアム」開館

## 世界の環境首都をめざして

平成16(2004)年	「世界の環境首都」を目指しグランド・デザイン策定
	北九州PCB廃棄物処理事業開始
平成18(2006)年	家庭ごみ分別見直し
平成19(2007)年	北九州市プラスチック資源化センター稼働開始
平成20(2008)年	国の「環境モデル都市」に選定
	「北九州市環境産業推進会議」設立
	北九州スマートコミュニティ創造事業が国の次世代エネルギー・社会システム実証地域に選定
平成22(2010)年	「アジア低炭素化センター」開設
	「北九州市生物多様性戦略」策定
	東日本大震災の被災地支援開始
	OECD「グリーンシティプログラムにおけるグリーン成長都市」に選定
平成23(2011)年	「環境未来都市」に選定
	「北九州市循環型社会形成推進基本計画」策定
平成24(2012)年	「北九州市響灘ヒートアップ」開設
平成25(2013)年	OECDレポート「北九州のグリーン成長」の発表
平成27(2015)年	北九州PCB廃棄物処理事業の処理の拡大と処理期限の延長開始
	株式会社北九州レバワー設立
平成28(2016)年	G7北九州エネルギー大臣会合(EMM)開催
平成29(2017)年	フリピン・ダバオ市との「環境姉妹都市提携に関する覚書」締結
平成30(2018)年	OECDの「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」に選定
	国の「SDGs未来都市」に選定
令和 2(2020)年	「ゼロカーボンシティ」宣言
令和 3(2021)年	「北九州市気候非常事態宣言」
令和 4(2022)年	国から脱炭素先行地域に選定
	北九州PCB廃棄物処理事業の処理期限の再延長開始
令和 5(2023)年	アジア低炭素化センターを「アジアカーボンニュートラルセンター」へ改称
	プラスチック資源一括回収開始
令和 6(2024)年	北九州PCB廃棄物処理事業の終了

# 市民力を磨いて



北九州市環境審議会会長 浅野 直人



深刻な公害の克服も、全国に先駆けて大きな成果をあげてきている環境国際協力も、市民の力・理解と産学官の協力とで、着実に実現させてきたのが北九州市のこれまでの歩みでした。それらの経験をもとに平成16(2004)年には「世界の環境首都」をめざすグランド・デザインづくりが行われ、着実にプログラムが進められた結果、地域での環境への取り組みを推進できる社会基盤のハードおよびソフト両面が整いました。

その成果は、国内外の機関による表彰や国の未来都市など数多くの選定の事実が示しています。特にPCB処理施設を全国で始めて受け入れ、また、東日本大震災のがれきり処理を受け入れることができたのも、市民の深い理解があつてのことでした。

こうして歩みを振り返ってみると、市民の力や理解と産学官の協力がと見えにこれらの歩みを支えてきたことがわかります。

現在および将来の国民一人ひとりの生活の質・幸福度・ウェルビーイングの向上や、自然の再興(ネイチャーポジティブ)は、国の新たな環境基本計画がめざすものです。よくよく見渡せば、北九州の市域は自然に恵まれています。ですから、うれしいことに、北九州市は、市民の力で、すでにこの目標を確実に実現しつつあることがわかります。

## マスコットキャラクター紹介

### 北九州市環境マスコットキャラクター ていたん & ブラックていたん

ふたりは令和4(2022)年、北九州市の「カーボンニュートラル広報大使」に任命されました!

**ほく、ていたん!**  
7月7日生まれの男の子。のんびり屋で、正義感強いよ。エコ活動は得意だけど、走るの苦手。小倉発祥の焼うどんが大好き! いつも首に北九州市の花ひまわりワンポイント付き緑色のバンドナを巻いているよ。よろしくね!



ていたん      ブラックていたん  
©ていたん&ブラックていたん、北九州市

**ポク、ブラックていたん!**  
ていたんと同じ年で、10月1日生まれの男の子。ちょっとワガママっていわれる。たまに、くもんにまちがわれる。得意技は足じゃんけん! 苦手なのは後片付け。ブラックコーヒーが大好きで、紫色のバンドナがお気に入りさ。